

優 秀 賞

「建築の魅力」

愛知県立愛知工業高等学校 建設科 3年
樋 口 諒 哉

建築とは、簡単に言うと建物を建てるということです。家を建て、そこに人が住む。学校や博物館、映画館などを建て、大勢で利用する。しかし、本当にそれだけなのでしょうか。工業高校での三年間の生活を経て、もっと深いものなのだとわかりました。

工業高校へ入学して建築の授業を受けた時、建築の三要素というものを教わりました。それは、「美」「用」「強」という三つの要素です。美しさ、使いやすさ、強さといった建築物に必要なものを表したものです。ローマに「コロッセオ」という建築物があるのはご存知の方も多いと思います。この建築物は八〇年に建てられ、築年数は今年で一九三七年になり、世界で三番目に古いとされています。もちろんコロッセオにも三要素は組み込まれています。圧倒的な大きさと、外観の美しさ。一九三七年前に建てられたのにもかかわらず東京ドームと同じ収容人数を誇り、さらに闘技場として使うのに適した解放感。そして一番驚くべき点は、強さです。こんなに広く大きな建築物を昔の技術で作り上げ、さらに、数々の地震に耐え抜き、約一九四〇年もの間倒壊することなく、同じ場所に立ち続けていることは、まさに奇跡です。こんなに昔から建築は存在し、三要素も成り立っているということに、とても感動しました。世界には、コロッセオと同じように時代を超えて現代に残っている建築物はたくさんあります。私はそれこそ建築の大きな魅力の一つだと思います。自らの手で設計し、建物を建てる。そしてそれが何百年、何千年と引き継がれ、歴史となる。建築とは、文化、地形、そしてその時代の風習を未来に受け継いでいくものなのです。ここまで長い歴史を刻むことができるのは建築だけだと思います。これだけでも大変大きな魅力であり、夢のある職業だというのがお分かりいただけたと思います。

多くの人々の人生の中で、最も大きな買い物は住宅だと思います。住宅は人々に暮らしや安らぎ、夢を与えてくれます。ここで、私の夢を話したいと思います。私の夢は、一級建築士になり、人々のための住

宅や施設を設計し、さらに将来自分の家を自分で設計する。というものです。日々生活している中で、たくさんの住宅が目に入ってきます。今までは日常変わらない風景に特に何も感じずに過ごしてきました。ほとんどの人がそうだと思います。ですが、建築を学んでから私は変わりました。一つ一つの住宅を見るたびに、暮らしや夢が詰まっているんだなと思い、素敵だな、自分もかかわれたら幸せだなと強く感じました。それから私は建築に目覚め始めました。なので、出来るだけ多くの人々に建築の魅力を知り、それを職とする人が増えていってほしいと強く願っています。建築は本当に魅力的で、夢のある職業なのです。

もう一つ、大きな魅力を話そうと思います。設計をして、住宅を建て、引き渡したらそれで終わりと考える人は多いと思います。ですが、実はそのあとに最も嬉しい瞬間があるのです。日暮れ時、自分がかかわった一軒の家の前を通った時、家の中に明るい灯がついて、一家の楽しそうな生活が感じられるその瞬間、想像するだけでも幸せになるのではないのでしょうか。

今回、こうして建設業の魅力や感想を語る機会が設けられたことを大変嬉しく感じています。長々と語ってきたわけですが、これでもまだ魅力を伝えきれたとは思っていません。それだけ夢多き職業だということなのです。建築物が未来に引き継がれ、どんどん歴史を刻んでいき、多くの人々に影響と感動を与えていく。自分が担当し、設計した住宅に家族が住み、一家の楽しい生活が毎日毎日その家で続いていく。この二つは、たくさんある魅力の中でもかなり大きいものだと思います。この文章を読んで、今まで全く興味がなかった人も少しでも建築に興味を持ち、さらには建築の道に進んでくれる人も出てきてくれることを強く望んでいます。

私は残りの高校生活と大学生活の中で最大限勉強をし、社会に出てからより多くの人々に魅力を伝え、自分自身も責任感と誇りを持った建設業界の一員として頑張っていきたいと思っています。